

宮崎大学発 都農町かわら版

令和8年5月号



宮大が都農町寄附講座等
で行っている活動や情報を、
定期的にお知らせします！



寄附講座とは、教育研究の進展及び充実を図ることを
目的として、大学や研究機関などに対し寄附を行い講座を設置する制度です。町として
単独での寄附講座の開設は全国的にも珍しく、**宮崎県内では初めての取り組み**です。

人と人の世代を超えた
交流を目的にした

医学実習生が地域に触れて学ぶ スズキハウスでのひととき

4/22多目的交流広場「スズキハウス」（北新町）にお邪魔しました。この日は午後からEnjoyスポーツクラブさんによる体操教室が行われており、学生も一緒に体操をしました。普段から動きまわっている学生たちですが、ストレッチはかなり効果的だったようで、リフレッシュできていたようです。

体操の後はスズキハウスにいられていた方々とおしゃべりタイム。学生は県外から宮崎大学に来たことや実習のことを話したり、都農町のことを教えてもらったり、1時間ほど和気あいあいと楽しく過ごさせていただきました。このような地域の方々との病院外でのふれあいは、都農町や地域を理解する上でとても重要で貴重な機会です。お話しくださった皆様、ありがとうございました。



コラム

つのまるケア講座 日常の「コマ」by 桐ヶ谷先生

医学部

先日、宮崎県看護協会で「地域全体で支えるACP*」をテーマに講演しました。ACPは、事前指示書を作成することだけではなく、本人の価値観に寄り添いながら、何度も対話を重ねていくプロセスです。看護職は、その中心的な役割を担っています。なお当日は、私自身が会場を間違え、ぎりぎり到着するというハプニングも。前もって計画し、状況に応じて見直しを重ねることの大切さを、身をもって学ぶ一日となりました。

*アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning) の略称。

5/21 つのまるケアミーティング

今回は「ACPすごろく」を使ってグループワークを行いました。ACPとは、もしものときに望む医療やケアについて、大切な人と前もって話し合っておく取り組みで、日本では「人生会議」とも呼ばれています。すごろくでは、0歳から人生の最期までの場面をたどりながら、その時々のおもいや迷いを語り合いました。医療・介護職、医学生、高校生など立場はさまざまでしたが、それぞれの思いを率直に語り合い、考えを共有できる時間になりました。ACPは一度きりではなく、繰り返し話し合うことが大切です。身近な人と話してみるきっかけになればと思います。



☆☆ 今月の実習生紹介 ☆☆ 地域包括ケア実習

医学部医学科6年生 みわ 三輪 はるか 遥さん 5/11~6/4

出身：東京都 部活：バレーボール部
趣味：ワイン、ラグビー観戦、マラソン



ひと言：1か月間、様々なシーンで大変お世話になりました！皆様の優しさ・温かさに包まれて、実りの多い充実した実習となりました。ありがとうございました！都農がもっと好きになったので、またワイナリーやマラソン大会で戻ってきます！皆様お元気で！

5/16 地域学基礎 東都農駅周辺町歩き

良い天気にも恵まれ、朝から40名の地域学部1年生が東都農駅に電車で集合しました。瀬川先生と上級生9名が手分けして、各グループの様子見守り、写真撮影などのために車で巡回する中、8つの班に分かれて担当の区域（寺迫～長野～丸溝地区まで）を徒歩で回り、地域の様子や資源を探索しました。お店の方々や地元の皆様にお声がけし、話を伺い、様々な発見をしたようです。学生たちのメモカや聞き取り力が試される初めてのフィールドワーク。この後の授業では、各班でメモを地図に落とす作業に入ります。



5/20 PBL始動！受講生全員で都農町を訪問

今年度のPBL (Project Based Learning) は、工藤先生の指導のもと、1年生21名、2年生8名で企画実践活動をしていきます。それぞれ企画アイデアを考案しつつ、全員で都農町を訪問して、つの未来財団、ふれあいの居場所、道の駅つのにて、町の現状課題をヒアリングしました。さらに飛び込みでしたが、旧10号線にオープンした自家焙煎コーヒー店unebi店主の古部さんにもお話を伺いました。様々な課題や現状に触れた学生は、今後実企画案を深めていきます。

1年生は初企画として、恒例の7月の「ふれあいの居場所（南新町）」でのお楽しみ会に取り組みます。今年度も各方面で町の皆様にお世話になります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

コーヒー店Unebiにて→



4/24～町民ワークショップを開催しました。

「都農をつなぐ」町民ワークショップ第1回を3小学校区で開催、各校区15名～35名が参加し、テーブルごとに自分の未来と町の10年後のありたい姿を想像し、共有するワークに取り組みました。

10～80代が同じテーブルでそれぞれの視点で町の未来を考えると、様々な気づきがあったようです。

参加者の満足度は総じて高く、普段話す機会のない世代や人との出会いや意見交換が楽しかったという声が多く聞かれました。皆で語ることで、町を良くしたいという想いがさらに大きくなり、町民の方々のまちづくりへの積極参加も期待されます。



各小学校区体育館でのワークショップの様子

全3校区で1回目を終えて by 全体進行役 岡

南小35名、都農小22名、東小15名の参加があり、特に20～40代の若い世代の声を聞く貴重な機会となりました。都農の未来を考える初めの作業は、この先10年の自分と大切な人の未来のありたい姿を個人シートに書いてグループ内で共有する内容でした。世代ごとの考え方や視点の違いが明らかになり、町の将来を考えるには幅広い視野が必要だと、皆さん自然と気づいたようでした。

後半は、ありたい町の姿をグループごとに話し合いました。学生の作成した生成AIでのグラレコ（イラスト風記録）も好評でした。各校区2回目ワークショップも楽しみです。



デジタル版

編集・作成：宮崎大学研究・産学地域連携推進機構
発行日：2026年5月26日（原則毎月発行）
発行元：一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
問い合わせ：0983-32-1270（つの未来財団）